

みんなの
ための
学校長会に

茨城県 学校長会広報

第240号

発行者
茨城県学校長会
会長 小島 睦
事務局
〒311-1125
水戸市大場町933-1
教育プラザいばらき内
☎ 029-269-1300
FAX 029-269-1304

特集

新年度に備えて 危機管理体制の整備と学校安全の確保



目次

- 表紙写真に寄せて……………1
- 特集1「新年度に備えて
―我が校の課題―」……………2
- 課題「流行と不易のバランスの
とれた学校経営を目指して」……………5
- 特集2「危機管理体制の整備と
学校安全の確保」……………6
- 提言二題……………8
- 特別寄稿「若手教育こそ
教師の魅力を語ろう」……………9
- 研修報告「全連小・全日中」……………9
- ブロック研修会から……………10
- ひばり・梅のかおり……………12
- 市町村教育委員会と学校長会……………16

創立五〇周年を迎えて

鹿嶋・鹿島中

木滝 道章

一月二日、澄み渡った秋の空
 気の中、本校文化祭「鹿華祭」に
 併せて「創立五〇周年記念式典」
 を行いました。

「会場全体を包む温かさ」は来場
 されたご来賓の方々の一致した感
 想で、明るい挨拶や、地域ボラン
 ティア、各部活動等での活躍と並
 ぶ、生徒たちの大きな特徴です。

真っ直ぐな瞳と直向きな姿勢で
 話を聴いたり、精一杯合唱したり
 する生徒の姿に感動しつつ、これ
 までの五〇年の歴史や伝統の重み
 と、生徒たちの未来に思いを巡ら
 せました。

新年度に備えて —我が校の課題—

特集 1

児童に「自信をもたせる学校」を目指す

水戸・妻里小 橋 義孝

本校の課題は、社会を生き抜くために、自ら考え何事にも自信をもって活動できる児童を育てることであり、次年度は次のことに取り組んでいく。

一 学びを自信にする授業改善
今年度、自分の意見を相手に伝える過程の設定等の改善を行った。このことを生かし、伝えることだけでなく、「聴く」「認め合う」ことも重視し、他者との協働から、自分の考えを広げ深い学びにできる過程を工夫し、児童が自信をもつことにつなげていく。また、小中や小中連携で、教科免許をもつ教師の助言を受けることや教材の共有にも取り組み、教科指導の充実も図っていききたい。

二 自分たちで課題を見付け改善できる児童会活動
今年度、前例踏襲の委員会活動ではなく、自治的な活動にするため校内代表委員会を設置した。話し合いを通して、生活改善キャンペーン週間が設けられ、学級毎に積極的に課題解決に向けた活動を行うことができた。学校が一丸となって取り組む雰囲気が生み、できたこと

によって自信になったと感じている。次年度は、発想や行動力を広げるために主担当に若手を起用し教頭を担当に加え、児童や教師の想いを行動化することを実践していく。また、上級生には、課題意識と段取り力を身に付けさせ、学校活性化への活動を通して自信をもたせていきたい。

最後に、児童全員が自信をもって学校生活を送るために

研修の充実と

全児童参加の教育活動の推進

笠間・友部第二小 長堀 成子

本校は笠間市のほぼ中央に位置する児童数四五七名の中規模校である。保護者・地域の方々は学校経営に協力的である。

本年度の組織目標は「基礎基本の徹底（生活面・学習面）」とした。新学習指導要領の実施を控え、この視点で日々の教育活動全体を点検し実践することが本校にとつての重要な準備の一つと考えたからである。次年度は本年度の成果の上に次の二項目を重点として掲げたい。

一 実効性のある研修の実施
新指導要領にある「主体的・対話的で深い学び」が保障された授業は、教師に学習過程の質的改善を求めるものとなる。知識の量を削減せず質の高い理解を図る授業を構成する力を教師各自が身に付けなければならぬ。それには研修が必要であることは論をまたないが、課題は研修の実効性であると考え、本校の職員は現在でも熱心に授業づくりに取り組んでいるが、

は、自らを律しルールを守る意識も必要であると考え。現在、本市では、「規律と協働を高める八策」と銘を打ち、学びのルールや教師の協働について、市内すべての学校で同じことができるように取り組んでいる。このことについても徹底していく。



今の授業の何をどう変えるのか、また新たに何を加えるべきなのか等を教師自身が主体的に研修し、今以上に意欲的に授業改善に取り組もうとするような研修の充実を図りたい。

二 全児童が参加できる教育活動の継承・推進

本校に赴任して驚いたことは、全ての児童が学校での活動に参加できるよう様々な配慮・指導がなされていることである。特別な配慮を要する児童・様々な家庭環境の児童等、それぞれ重い課題を抱えていても学級ではその抱える問題が無いかのようになりやかに生活・学習できるように工夫されている。これまで本校に勤務した先生方の並々ならぬ努力を今後も継承したい。

児童の一層の笑顔のために、来年度も教職員・保護者・地域がまとまって鋭意努力を続ける所存である。



生徒指導の機能を核として

日立・助川中 鈴木 洋一

若手が多い本校では、昨年度、助中コンプライアンスを宣言して日々の実践に当たっている。中でも、「職務に際してはできない理由を探さないこと。」を職員間の共通認識としている。

本校は、学力向上と不登校生徒の未然防止・解消に努めている。これら二つの課題から、鍵となる育てるべき力は自己指導力であると考ええる。

二年間取り組んできた結果、各学年とも学力診断のためのテスト等の経年変化に伸びが見られるようになり、また、県へ報告する不登校生徒数も、同時期比較で約半数となった。これまでの実践から次年度への課題を三点に絞り、組織目標の達成を目指して取り組んでいきたい。

一 生徒指導の機能を生かした授業づくり

異動等があることから、「生徒指導の三つの機能」について全員で勉強する。次に、三つの機能を学習指導場面に位置付け、定期的な相互授業参観で得たことを、他教科の職員が自分の授業に生かすようにする。

二 学力向上の糸口となるQU



職員研修「QU分析と支援方法について」

アンケートの活用
親和的なまとまりのある学級集団を目指すために、早稲田大学主催の研修会に参加した成果を全職員で共有する。非承認群、不満足群等に加えて、満足群の生徒に対しても支援策を講じ、自己実現を図らせるための各学級ごとの計画書を作成し、随時更新を加えるなどして学級・学年経営の中核に据える。

三 組織で取り組む生徒指導体制の強化

生徒指導上の対応は、迅速かつ適切さが求められる。組織的に集めた情報から課題の明確化を図り、必要に応じて関係機関と連携をして、より実効性を高める。特別活動がもたらす教育的効果も欠くことができない。

スーパーげんきっ子を目指して

銚田・大竹小 白田 甚一

本校は、銚田市の東部に位置した児童数八四名の小規模校である。「スーパーげんきっ子を目指して」を合言葉に、児童一人一人を大切にしたい教育活動を推進している。

平成三一年四月に統合が予定されており、来年度は本校にとつて最後の一年となる。そのため次の二点に留意し、実践を進めていきたい。

一 知・徳・体のバランス

未来をたくましく生き抜く児童にとつては、知・徳・体のバランスがとれた学力の向上が必要である。そのためには、本校の三つのプロジェクト「豊かな心育成プロジェクト」「学力向上プロジェクト」「健やかな体育プロジェクト」の推進を更に進めていく。「豊かな心育成プロジェクト」では、人権集会や海辺の体験活動、読書活動等を通して、思いやりの心や頑張る心を培っていく。「学力向上プロジェクト」では、銚田市授業スタイルに基づいた授業改善や職員研修を通して授業力の向上を目指す。「健やかな体育プロジェクト」では、げんきっ

子タイム等を通して体力を向上させ、また、避難訓練や地域社会との連携を通して、安全・安心な学校づくりを推進する。

二 統合校へ夢をつなぐ

平成三二年四月に統合が予定されている本校では、他の六つの学校と合同での取組を行っている。合同の宿泊学習、学習活動、マラソン大会等を通して、学校間の交流を進めるとともに、児童同士の人間関係を広

児童一人一人を主役にした学校づくり

一 守谷市保幼小中高一貫教育きらめきプロジェクトの推進

守谷・御所ヶ丘小 鴻巣 哲

本校は、守谷市の北部に位置し、周りは住宅地に囲まれた全児童三五九名の中規模校である。

平成二九年度は、保幼小中高一貫教育にあたり、「継承・継続・深化・発展」のもと、次のように取り組んだ。まず、中

学校区では、一中三小学校間でのグラウンドデザインの再検討と保幼小連携・小小連携・小中連携カレンダーの作成を通して共通理解を図った。そこで校内で

げ、スムーズな統合を目指している。また、学校生活の様式を統一し、同一歩調で指導することにより、統合への垣根を少しでも低くしようと努めている。児童一人一人が「スーパーげんき」に活躍し、統合校へ夢をつなげることができるよう一年にしたい。



は、保幼小での道徳科・生活科の協働授業、若手教員の隣接幼稚園での一日研修を実施した。三小学校間では、テレビ会議システムを活用した協働授業、また、中学校とは特別活動と外国語活動を通して、共に協働授業を行った。

新年度は、これらの取組を生かし、中学校区で育成していく児童生徒の具体的な姿の共通理解を深め、教職員個々の主体的実践力の向上を図っていききたい。



一 中学校区授業スタイルの確立

児童生徒の学びの連続性を考えた時、中学校区で授業スタイルを確立し共通実践することが不可欠である。そこで、以下の視点から各校の実践の共通化を図る。

- (一) 守谷市学びのプラン「学習スキル」を意識した授業づくり
 - (二) 授業規律やペア・グループ学習の進め方の共通理解
 - (三) 学びのスキル系統表や情報機器の活用
 - (四) 授業相互参観の機会の設定
- ### 二 中学校区小中一貫教育推進体制の再構成
- 三者がそれぞれの立場で組織マネジメントを活用した評価・改善を行うことは大切である。そこで、以下の二つの視点から組織を再構成する。
- (一) 一貫教育運営委員会の設置
 - (二) 三者の役割分担の明確化

活力ある学校を目指して

稲敷・新利根中 畑山 尚弘

本校は全校生徒一九七名の学校である。学校経営の基本理念を「創造と参画」チャレンジ」とし、学校づくりへの生徒の参画意識を高めるため、生徒会活動の充実を図っている。また、本校は一小一中で学校も隣接しており、地の利を生かし小中連携教育を推進している。

来年度も「生徒会活動」「小中連携」のさらなる活性化を図り、活力ある学校を目指していきたいと考えている。

一 生徒会活動の充実

生徒会が中心となり、「ONEチャレンジ運動」を実践している。行事等において、昨年度よりも進んだ取組にし、活動の質を高めるといえるものである。生徒会のマナーアップ運動において、生徒から集めた折り鶴で廊下にセンターラインを作り右側歩行を呼びかける等、今年度も様々なONEチャレンジが行われた。来年度は生徒会活動を学力向上に結びつけられるような新たな実践をしていきたい。

二 小中連携教育の推進

小中連携教育においては挨拶運動や保健委員による小学生へ

の歯磨き指導、吹奏楽部ミニコンサート等、行事中心に実践し成果を上げている。来年度は、本校三年生の目指す生徒像が九年間の完成であり、それに向け、小中の各学年で系統的な指導が必要であるという考えのもと次の三点を進めていきたい。

- (一) 学びや育ちを重視した小中でのグラウンドデザインの共有化
- (二) キャリア教育を視点とした発達段階に応じた目指す生徒像の編成



小学生への歯磨き指導

(三) 九年間を見通したカリキュラム編成
小中連携教育の推進には教職員意識高揚が不可欠である。今後もそのねらいや成果を明らかにし、実践していきたい。

主体的な活動の活性化と対話的な深い学びの実現を目指して

桜川・岩瀬西中 宇佐美 徹

ことよって学習の定着を形成的に評価する。この共通事項を全職員が意図的計画的に単元の指導計画に位置付けることで、生徒の確かな学力を保障していきたい。

二 ネットトラブル防止に向けた生徒の主体的な取組

生徒のSNSの利用によるネットトラブルは大きな課題である。本校では、毎月のいじめアンケートやケータイネット安全教室を実施してきたが、さらに生徒が主体となる未然防止の取組が必要とされる。今年度は、生徒会を中心に自分たちで決めたことは自分たちが守る家庭でのルールづくりに取り組んだ。「岩瀬西中ケータイネット安全利用八カ条」である。生徒の主体性を大切に、家庭の協力を得ながら今後も取り組んでいきたい。

本校は、桜川市の北西部に位置した全生徒数二七四名の学校である。「自ら学び 心豊かにたくましく生きる生徒の育成」を学校教育目標に、未来をたくましく生き抜く生徒の育成に向けて取り組んでいる。

今年度の成果と課題を十分に踏まえ、全職員で次のことを重点に取り組んでいく。

一 対話的な深い学びを重視した授業改善

教師主導型授業から生徒の対話を重視した授業の実現を図る。毎時の振り返りを重視する



課題



流行と不易のバランスのとれた学校経営を目指して

県学校長会副会長 富永 保
(龍ヶ崎・龍ヶ崎小)

昨年度末に新学習指導要領が告示された。そこには、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」をバランスよく育成することが求められている。

なお、教育課程の編成にあたっては、「何ができるようになるか」を明確にしながら、「何を学ぶか」という学習内容と「どのように学ぶか」という学習過程を改善しながら、子供が学びの意義や成果を自覚して、次の学びへつなげることができるようにと期待されている。そのため、学校と地域・家庭とが目標を共有したカリキュラム・マネジメント、つまり「社会に開かれた教育課程」が必要であるとされている。

さらに、新しい時代に求められる資質・能力を育成することを旨とした「主体的・対話的で深い学び」の授業改善、学習過程の改善も求められている。

今回の改訂は予測困難な時代に対応する力を子供たちに育むことを目指していることから、

大きな教育改革であり、「時代の変化とともに変えていく必要があるもの」(流行)である。

一方、少子化や核家族化、家庭や地域の教育力の低下、人間関係の希薄化、自己肯定感の低下などから、不登校やいじめの問題が増加している。特に不登校は学校不適応の原因として捉えられている事例が多く、またいじめが原因で自殺してしまう深刻な問題が発生している。これらの問題を緊急に解決・改善、未然防止に努めることは各学校の課題である。

だからこそ、どんなに社会が変化しようとも「時代を超えて変わらない価値のあるもの」(不易)を大切にしていかなければならない部分がある。そのため校長は教育における「不易」と「流行」を十分に見極め、子供たちの教育を進めていかなければならない。

私は子供の立場で「学校とは何か」を考えた場合、「みんなが遊ぶ、みんなで学び、みんなが生活するところ」と答える。

特に学校生活の中心となる学級での生活は「主体的・対話的で深い学び」の授業改善を図る上でも大きな役割を果たす。マズローの欲求階層説(生理的欲求↓安全の欲求↓所属と愛の欲求↓承認の欲求↓自己実現の欲求)からも理解することができ

る。また、子供たちの学びを新築する家で考えてみると、地盤が学級経営、土台が読む、聞く、話す、書くなど学ぶための基礎的能力、基礎が基礎・基本の定着、一階部分が知識・技能の習得、二階が思考力、判断力、表現力等、三階が学びに向かう力と考えることができる。つまり、学級経営の充実がすべての教育活動の充実に繋がり、その重要さを常に捉えておく必要がある。

また、子供たち一人一人に適応(適応とは外部の環境に適するように行動や意識を変えていくこと)できる力を育むことも必要である。具体的には「みんなに合わせる」、「自分自身の中で、自分と他者との間で折り合いをつける」資質能力である。

二十一世紀をたくましく生き抜く子供たちを育てるために、校長として流行と不易の部分の確かなビジョンをもって学校経営に当たっていききたい。

夢と感動のある学校

「目標の連鎖と同僚性の高まりを核にした

人材育成を通して」

結城郡・八千代第一中 石塚 浩司

目標の連鎖と教育活動への協働参画による同僚性の高まりを核に学校経営に取り組んできた。この一年を振り返り、校長のリーダーシップの重要性を痛感している。

学習指導や生徒指導等、教職員は学校の抱える課題の解決を目指して努力している。しかし、成果につながっていない部分もあった。そこで、学校評価等をもとに、教師の授業力向上と不登校生徒の解消の二つを組織目標に設定し、グループ目標や自己目標を関連させることで目標の連鎖を図り、教育活動の活性化を図った。また、校務分掌を見直し、チームで協働して教育活動を展開することで同僚性を高めることを目指した。研究主任や生徒指導主事等の中堅教員を推進役に取組を推進することで、教科部員やケース会議が充実し、ベテラン教職員の知恵や若手教員の発想を生かした施策が講じられた。例えば、二クラスを三コースに分けた少人数指導や臨床心理士を目指す大学院生と連携した生徒の学校生活適応を支援する構造的グ

ループ・エンカウンターの実施、合言葉「夢と感動のある学校」の具現化に向け、生徒会スローガン「仲間との絆が心を熱くする」友情・協力・感謝」を掲げた生徒会主導の教育活動の推進や生徒主体の学校行事の運営等である。これらの施策を教育課程に位置付け、組織的継続的に推進することで、一定の成果が表れ、達成感や成就感を共有することで教職員と生徒の一体感が高まった。

目標の連鎖と同僚性の高まりを核にした人材育成の観点から取組を再点検するとともに、リーダーシップの在り方を振り返り、次年度に向けた学校経営の改善を図りたい。



ボランティアスピリッツ表彰
【生徒会主導の自問清掃】

特集2

危機管理体制の整備と 学校安全の確保

生徒の安全を守るために

東茨城・桂中 長山 透

本校の学区は、自然豊かな地域であるが生徒数の減少に伴い、職員数も減少し、学校だけで生徒の安全・安心を確保していくことが難しい状況になってきている。職員の危機管理能力を高めるとともに生徒の危険予測能力や回避能力を高めていくこと、保護者や地域の理解と協力を今まで以上に得ていくことが喫緊の課題となっている。以下、学校としての取組を紹介したい。

一 食物アレルギーへの対応
昨年度より、学校と教育委員会が話し合いをもち、町としての統一を図った。

○食物アレルギーをもつ生徒の保護者と学校の共通理解
年度当初、保護者の申出により、面談を実施し、提出された学校管理指導表を基に、全職員で共通理解を図っている。
毎月一か月前に、該当生徒と保護者が献立とアレルギー対応表を基に対応を決定し、保

護者、学校、給食センターの三者で情報を共有している。

○食物アレルギー対応研修
食物アレルギーによるアナフィラキシーショックを引き起こした場合の生徒対応について、研修を通してエビペンの使用方法を習得している。

二 登下校時の安全確保
本校生徒の多くは、自転車通学であるため、交通安全対策や不審者対応への保護者の関心が高い。このような状況の中で、地域や関係機関と連携した安全確保に取り組んでいる。

○地区生徒会の通学路点検
地区生徒会が中心となり、地域の清掃をしながら、通学路の点検を行っている。反省の中で、安全な自転車の乗り方についても振り返っている。
○防災訓練（不審者対応）
スクールサポーターを講師に招聘し、不審者対応訓練を行っている。避難だけではなく、職員の不審者対応訓練や生徒への護身術の指導など、実践的な訓練も行っている。
○PTA校外指導委員会による下校指導
学校では、月初めの立哨指導、年間を通した下校指導を行っている。PTA校外指導委員会でも、地区ごとに定期的に下校指導を実践している。日没が早くなる時期の下校指導については生徒にとっ

ても安心である。
今後とも生徒が安全・安心に生活できるよう保護者・地域・関係機関と連携していきたい。

八月二九日のJアラート発令に伴い、本校では避難訓練を企画し、教職員に提案したのは九月一四日であった。「外から校舎内への避難は、校舎の出入口に殺到することになり、かえって危険」「駆け込む児童がパニック状態になるので心配」との批判が出て、実施方法が定まらず、案は一時棚上げとなった。

新しい危機に対する 管理体制の整備

新しい危機に対する 管理体制の整備

日立・滑川小 宮田 浩昭



○学校に登校してしまつた児童は学校で預かる。○自宅待機の児童は、指示があるまで外へ出ないことを守るように保護者に協力を依頼した。

ところが「テレビの放送では、もう着弾して危機は去つたように思うが、いつまで自宅待機にさせるのか」「立哨当番だけでも、どうしたらいいのか」「○○小では通常登校の指示が出たが、貴校はどうするのか」「仕事に出たいが自宅待機で子供を登校させられない。仕事に出るが子供は欠席扱いなのか」等の問い合わせが殺到した。全く予期していなかったことである。近隣の小中学校と電話で確認し合い、

○学校の対応
学校は緊急メールを発信し、○

メディアの報道を見て、自宅待機を解除した。いかに新しい危機への備えが不十分であったかを思い知らされた。

二 避難訓練の実施

○休み時間にJアラートが発令された想定で、子供たちを外から校舎内に避難させる。○外からの避難なので、二階の教室と特別教室を開放し、避難場所とする。○出入口での混乱を避けるため、学年学級毎に避難場所を指定する。○避難場所に着いたら奥から詰めて安全姿勢（ダンゴムシのポーズ）をとらせる。○避難解除の放送で教室へ戻り、人員点呼をする。

九月二日の朝（教室にいて安全姿勢）と昼休み（全員外にいて校舎への避難）の二回、安全に訓練を実施することができ、登下校時のJアラート対応を保護者向けに周知した。

新しい課題は次々に生じていく。早い段階で共通理解を図り、同一步調で対応することができると体制整備の大切さを学んだ。



危機管理体制の整備と

学校安全の確保

土浦・荒川沖小 船木 昭芳

一 はじめに〜学区の概況

本校では交通量が多い荒川沖駅周辺や国道を横断して登校する児童が多い。さらに半数以上の児童が狭い市道やそれと常磐線が交差する踏切を通過せざるをえず、交通事故の危険性が高い。また、以前、荒川沖駅で殺傷事件が発生したこともあり、地域の安全への関心は高く、大勢の方が児童たちの登下校の見守り活動を続けてくれている。

二 学校安全への取り組み

○交通安全教室（四月）



三 危機管理体制の整備

(一)緊急連絡方法の改善

一 昨年度、緊急時の連絡方法を携帯電話によるメール配信にする方針を保護者に伝え、登録を強く呼びかけた。その結果、登録者の割合は約九八％に達し、一つの方法で緊急連絡が済み、迅速に連絡が行えるようになった。未加入者は日本語ではその内容が伝わりにくい外国人の保護者で、その家庭には電話連絡をするようにしている。

(二)合同引き渡し訓練

児童を安全に保護者に引き渡す必要が生じた場合に引

対象 一・三年生

○避難訓練・引き渡し訓練（年三回）

対象 全校児童・保護者

○防犯教室（十二月）

対象 全校児童

○心肺蘇生法講習（七月）

対象 五年生

○薬物乱用防止教室（十月）

対象 四・六年生

○職員のエビソ講習（四月）

及び心肺蘇生法講習（八月）

学校安全の確保のために

結城郡・西豊田小 廣澤 嘉成

四 今後の課題

より現実的で災害に対応した

は、学区内の中学校、さらに幼稚園や保育所との連携が必要であるため、昨年、その第一段階として中学校区内の小中五校で合同の引き渡し訓練を実施した。

避難訓練にするためには、学校や学区単位ではなく市の危機管理を担当する部署が主導し、行政や警察、消防など関係機関と連携したより広域的なものを実施する必要があり、今後、構築していくべきものと考えている。

一 はじめに

本校は鬼怒川の西の自然豊かな田園地帯にある。危機管理については、日常的な安全対策はもちろん、鬼怒川水害等の自然災害やJアラート発令等、新たな「危機」への対応も求められている。本校の危機管理の取組の一端について述べたい。

二 取組の現状

(一)登下校の安全確保

交通ボランティアの方々や保護者の皆様の協力により、児童の登下校の安全確保が保たれている。また、通学路の除草作業については、せんだん友の会（元PTA役員）の皆様に協力をいただいている。

しかし、二年前までは、送迎の車の乗り入れが数多くあり、通用門付近での見

三 おわりに

児童の安全確保は、学校に課せられた最も重要な使命の一つである。今後も職員の危機意識の高揚と児童の自己管理能力の育成を目指すとともに、保護者や地域、関係機関と連携・協力して様々な危機に備えた対応に取り組んでいきたい。



(二)危機管理マニュアルを活用した研修と避難訓練の実施

職員の共通理解を図り、より実践的で組織的な対応ができるよう、危機管理マニュアルを活用した研修と避難訓練を計画的に実施し、併せて見直しと改善を図っている。

提 言 一 二 題

PTA活動はご縁

坂東市PTA連絡協議会

会長 倉持 守一



今年度、坂東市PTA連絡協議会会長を務めさせていただいております倉持です。日頃より、校長先生をはじめ、諸先生方には、PTA活動に多大なるご理解とご協力をいただき、この場をお借りして御礼申し上げます。

私がPTA活動に参加するようになったきっかけは、地域に継承されている「猿島ばやし保存会」の活動に参加したことです。当時、生子菅小学校に通っていた私の長女が、小学校で実施している「猿島ばやし保存子ども会」に入りました。学校と地域が連携し、地域の伝統文化を学び、後世に残していこうという趣旨で活動していました。私自身が、放課後の練習で子供たちに教えるようになり、学校と保存会の会員が協力し合い、

指導することで、子供たち一人一人が自信をもって演奏する姿に喜びを感じました。同時に、学校と地域が連携することの素晴らしさを実感しました。そのようなか、PTA本部役員の推薦をいただいたのです。最初は、正直「面倒くさい」という思いはありましたが、子供たちのために頑張れるよい機会、「これもご縁」と思い、引き受けさせていただきました。ご縁に学びました。

本部役員になり、校長先生をはじめ諸先生方と知り合えたこととは、自分にとって、すごくよいご縁だったと思います。本部役員としての仕事はもちろん、自分の子供たちの学校での生活の様子を聞くことができたり、家庭での様子など、先生に相談する機会も増えたりしました。本部としての仕事は大変な部分もありましたが、自分の子供たちが通っている学校のさまざまな行事をお手伝いすることで得る喜びの方が、遥かに大きいものでした。

PTAとは、単に学校のお手伝いをするだけでなく、親も子供と一緒に学べる場なんです。それを「面倒」と感じる人もい

ると思います。「なんで面倒なんですか？自分の大切な子供たちを預けているのですよね！」私は、親にももっと学んでほしいと思います。

坂東市P連では、毎年、指導者研修会を開いています。参加者の多くが、単位PTAの役員さんです。それではダメだと思えます。是非、会員のみなさんにも学んでほしいです。

私は、PTA役員になって、人との関わりや子供たちとの接し方を学びました。「人として学ぶ」子育てやこれからの人生で一番大切なことではないかと思えます。そんなPTA活動です。これからはみなさんと一緒に学んでいきたいです。

PTA活動について思うこと

ひたちなか市PTA連絡協議会

会長 高木 貴之



平成二九年度、ひたちなか市PTA連絡協議会の会長を務めさせていただいております高木貴之と申します。日頃より、校

長先生をはじめ、各学校関係者の皆様には、PTA活動にご理解、ご協力をいただき、深く感謝申し上げます。

我がひたちなか市PTA連絡協議会は、二〇校の小学校と九校の中学校で構成され、PTA会員数は、約一四〇〇名となっております。大きなイベント活動は、「指導者研修会」「教育講演会」を開催することです。活動最大の目的は、単位PTAの活動促進であり、前記二大イベントを通じて(一)市内小中学校PTAの連携を図ること(二)PTAの正しい在り方について研究すること、を目標としています。

ひたちなか市のPTAは、「親父の会」の設置率が高く、市Pの指導者研修会で行われた聞き取り調査でも、多数の単Pで親父の会が活躍していることがわかりました。なかでも、活発な活動を行っているのが、那珂湊地区の親父の会です。単Pでの活躍はもとより、他校の親父の会と親睦会を行ったり、地域のコミュニティセンターのお祭りに模擬店を出店したりと、地域の健全育成にも活躍しております。また、他のPTAも地域のお祭りへの参加は、盛んに行われており、地域の交流を育むうえで、重要な役割を担って

おります。

わたしの所属する津田小学校PTAでは、親父の会が活発に活動している他、朝のあいさつ運動に力を入れております。なぜ、あいさつが重要なのでしょうか？

それは、子供たちの将来に必ず「得」を与えるからです。あいさつには、「あなたに対して敵意はありません」という気持ちを伝える力があります。

「あいさつをする」それだけで初対面の相手へも好印象を与えることは、間違いありません。ただ、あいさつは、相手がいてはじめて成り立ちます。子供たちがあいさつをしたときに、きちんとあいさつを返すという当たり前のことを続け、あいさつをすることが正しいという文化を学校内、そして地域でつくりあげることが重要です。あいさつしたとき、あいさつが自然と返ってくる、そんな当たり前の人間関係を築けるのが、学校とPTAです。良好な人間関係を構築することの出来る人間を育てることに、PTAが一役かえれば、こんなに嬉しいことはありません。

今後PとTが連携を深め、地域の活性化につながることを期待いたします。

特別寄稿



若手教員こそ

教師の魅力を語ろう

つくばみらい市教育委員会
教育長 福田 敏男

教員の長時間勤務が問題となり、国でも働き方改革が議論されている。その中で、とても危惧していることの一つに、「先生のなり手が少ない」という現状がある。私が小中学生だった頃、将来になりたい職業に「学校の先生」は上位に入っていたと思う。当時の私の恩師の方々は、それぞれに魅力的であり、私も教員を目指そうと思ったのもその影響が大きかったように思う。

さて、本県では、今年の教員採用試験の倍率は、小学校で平均二・三五倍、中学校では教科によって二倍を切っている教科もあるという実状がある。教員の質の確保と向上はもちろん重要なことであるが、その前に数（量）の確保も大きな課題となってきたと思う。ちなみに本市の職員採用倍率はここ数年十倍を超えている。志望理由の一つとして、休みがきちんと取れることが教員とは違う大きな魅力だという受験生の言葉が印象

に残っている。ブラック企業よりも厳しい教員の勤務実態などと、マスコミ等の記事の影響が少なからずあるのではないかと、いやそれだけではないだろうが、教員の志願者が増えることは、子供たちにとっていい先生との出会いが増えるメリットにつながっていくのではないだろうか。

どうしたら教員になりたいという子供たちを増やすことができるか、今後の大きな課題である。私は、「先生っていい職業だな」と思える子供たちを増やさなければならぬと考える。中学生から、「先生大変だね」とか、「先生疲れていますね」などと言われているようでは、先生になろうと思う子供が出てくるはずはないと断言できる。

そう考えると、現場で子供たちと直接関わっている先生方の力が大きいのではないかと。毎日楽しく子供たちと接し、生き生きと指導に当たっている先生の日々の姿こそが、子供たちの先生へのあこがれにつながっていく

と思う。そのためには、ベテラン教員はいうまでもなく若手教員の力量が大きく影響してくるのではないかと。

本市においては、若手教員育成のための研修を重視している。研修会を充実させ、若手教員の授業力や生徒指導力等の実践力が高まれば、子供との向き合い方も変わってくると思う。ここ数年、授業研修会をはじめ、ベテラン教員による授業公開を毎年三回実施している。ベテラン教員の授業への取組や子供との関わり方を学び、研究協議では教師の魅力と子供への熱い思いを語ってもらう機会を大切にしている。若手教員にとっては、教員としてのやりがいや再認識すると共に、これからの教員人生を考える契機ともなっている。

近い将来、約半数の仕事は自動化されるであろうが、人（子供たち）との関わりが不可欠な教員は無くならないし、子供を大切にし尊敬される教師は、何物にも代えられない子供の成長と幸せを感じることができると高い職業である。そのためにも、若手教員が自信をもって教壇に立つ姿こそ、教員を目指す子供たちを増やす原動力となっていくことを期待したい。

研 修 報 告

第六九回全連小
佐賀大会に参加して
常総・水海道小
石塚 哲也

第六八回全日中
東京大会に参加して
日立・日高中
田切 政昭

一〇月一二・一三日、第六九回全国連合小学校長会研究協議会佐賀大会が佐賀市文化会館等を会場に開催されました。

初日の開会行事の後、文部科学省大臣官房審議官「白間竜一郎氏」より新学習指導要領の主旨、教員の働き方改革について、いじめ防止について等の講話がありました。

午後は、五つの領域二三分科会に分かれ、研究協議が実施されました。本県からは、ひたちなか市立堀口小学校石井嘉紀校長先生が「自立と共生」の分科会で自校の特別支援教育の取組について発表し、分科会参加者にとって貴重な機会となりました。

最終日、画家「中島潔氏」、NHKアナウンサー「内山俊哉氏」、柿右衛門窯当主「五代酒井田柿右衛門氏」の佐賀県ゆかりのシンポジストによるシンポジウムが行われました。「未来を創る子どもたちに」をテーマに、「あたたかく・つよく・しなやかに」の三つの視点から、私たち校長はメッセージを頂きました。

第六八回全日中東京大会が、一〇月一八日〜二〇日に東京国際フォーラムを全体会場として開催され、本県からは伴敦夫団長以下二〇名が参加しました。

二日目の中学校教育七〇年記念式典では、皇太子同妃両殿下のご臨席を賜り、皇太子殿下より「心の触れ合う学校教育の実践を大切にしつつ、教育に対する国民の期待にこたえていかれることを願っています。」とお祝いのお言葉を賜りました。全体協議会の地区提案では、北海道浦河第一中学校から、ふるさとの教育資源をキャリアガイダンスに生かす活動と鳴門教育大学附属中学校から、学校評価の実効性を高めるための取組が発表され、研修を深めました。最終日には、大会宣言文決議後、大村智（フーベル生理学・医学賞受賞）氏の記念講演があり、年間二億人余の命を救っている研究の軌跡を知ることができました。

協議会、講演会から学んだことを今後の教育活動に活かしていきたいと考えます。

ブロック研修会から

新しい時代を拓く、
心豊かな日本人の育成

水戸・国田義務教育

吉井 由隆

今年度の中央ブロック校長研修会は、十一月一日（金）「新しい時代を拓く、心豊かな日本人の育成」のテーマの下、ひたちなか市文化会館を会場に、一六〇名を超える会員の参加を得て開催することができた。

今日の学校を取り巻く状況に目を向けると、学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた教育課程の編成や、より良い職場環境づくり、不祥事の根絶など、待ったなしの課題が山積している。そのような状況の中、六名の先生方から、課題に真正面から取り組んだ実践の発表や、新たな視点に立った貴重な提案がなされた。

その内容は、「教職員のよさを引き出し輝かせる学校経営の取組」「日常の教育実践と結びつけた研修を通して教職員の資質を高める取組」「相互に連携・協働して進める地域学校協働活動の取組」「教職員の意識の高揚と家庭・地域との連携を通して活力ある学校づくりの取組」



創意と活力に満ちた 学校づくり

日立・助川小
額賀 隆

茨城県県北中学校長研究発表会が、一〇月三十一日に常陸太田市生涯学習センターを会場に、県北各市教育委員会教育長のご臨席のもと開催された。講師には、県北教育事務所長板橋幸子様をお願いした。

はじめに、今年度の県北校長会の研究主題「創意と活力に満ちた学校づくり」を受けて、常陸太田市立水府中学校長岡勝典校長が常陸太田市のアンケート結果や研究テーマを踏まえて、研究主題「児童生徒の夢や志を育む活力ある学校経営」・夢育の基盤となる生きる力を育む特色ある教育活動をとおして」として研究の成果が発表された。

特に、実践事例では、グラウンドデザイン作成の手順やボラティア活動隊の改善・充実の方法が校長のリーダーシップのものと見事に実践されている発表であった。さらに、常陸太田市内各小・中学校の夢育実現のための実践について、具体的な報告がなされた。協議の中では、グラウンドデザイン作成における全職員の意見の反映、地域・保護者の願いをどう絡めていくかな



どについて、活発な意見が交わされた。

次に、各市学校長会から特色ある取組等の情報交換がされた。現在の小中学校が抱える多様な学校課題の解決に迫る方策や具体的な校長の役割について、共有化を図る貴重な時間にもなった。

最後に、講師の板橋所長より、研究発表に対する講評をいただくとともに、「教師の意識改革」「良い雰囲気職場・学校づくり（チームとしての学校）」「教師の資質能力の向上」等について示唆に富むご講話をいただく、半日の研修を終了することができた。

尚、来年度からの新しい形での研修会の充実を期待したい。

創意と活力に満ちた 学校経営

潮来・日の出小
茂木 悦男

県東ブロック中学校長研修会は、八月一日（火）「創意と活力に満ちた学校経営」のテーマのもと、レイクエコー・茨城県女性プラザにおいて開催された。

分散会では、鹿行教育事務所人事課の先生方を講師にお招きし、提案発表をもとに、学校の現状や課題から、取り組むべき方策について意見交換が行われた。詳細は以下のとおりである。

第一分散会

「学校危機管理と組織マネジメントを目指して」
鹿嶋・平井小 柏葉 正夫

第二分散会

「児童自ら判断・行動できる力を育てる安全教育・防災教育の推進を目指して」
潮来・牛堀小 志村 一

第三分散会

「だれもが、自分の存在を『絆』に感じることのできる自慢の学校を目指して」
神栖・神栖第三中

参加者からは「協議した内容がたいへん参考になった」「充実した意見交換ができた」等の意見が出された。



全体会に引き続き、茨城県教育庁学校教育部義務教育課長 森作宜民先生に「これからの学校経営」という演題でご講演をいただいた。

参加者からは、「現在の学校の現状と課題、新学習指導要領を中心とする今後の学校教育の方向がよく分かった」等の感想が多かった。分散会・講演会とともに、ブロック研修会の目的を十分達成することができたものと考ええる。

結びに、今回の研修会にあたりご指導いただいた鹿行教育事務所 櫻井邦彦所長様を始め、人事課の皆様、ご講演をいただいた義務教育課長の森作宜民様に改めて感謝を申し上げます。

一人一人が輝く活力ある学校づくりのための校長の役割
かすみがうら・千代田中
井坂 庄衛

今年度の県南ブロック研修会は、一〇月二五日（水）に茨城県県南生涯学習センターにおいて開催された。県南管内の小中学校・義務教育学校、二二九名の会員が六つの分科会に分かれ、「一人一人が輝く活力ある学校づくりのための校長の役割」を研究主題とし、提案発表に基づいて協議が行われた。

来賓として県南市町村教育長 連絡協議会長・土浦市教育委員会 教育長井坂隆様、講師として茨城県教育庁学校教育部義務教育課課長補佐栗山賢司様、県南教育事務所長大古輝夫様を始め九名の先生方に全体会並びに分科会でご指導いただいた。

各分科会では、六名の先生方より、地域の特性を生かした教育活動についての発表があった。どの分科会においても活発な意見交換や実践等の紹介があり、今後の学校経営等の参考になる充実した研修であった。

第一分科会
「社会に開かれた教育課程の実現に向けた学校経営」
つくば・吾妻中 古澤 武司

成29年度 茨城県校長会県南ブロック研



第二分科会

「小規模校の特性を生かし、一人一人に寄り添った学校経営を通して」
つくばみらい・福岡小
横山 貴美子

第三分科会

「人との関わりや施設等を生かした取組を通して」
稲敷・あずま北小
根本 政世士

第四分科会

「規範意識を育て豊かな人間性や社会性を育む生徒指導」
稲敷郡・美浦中 富岡 正幸

第五分科会

「家庭・地域との連携・協働により社会に開かれた教育課程を実現する体制づくり」
取手・寺原小 杉田 慶也

第六分科会

「人間性と専門性を高め、教職員の意識改革を促す現職教育」
牛久・向台小 林 雄一

創意と自校の実情を生かした学校経営の研究と実践
筑西・下館小
飯泉 雅司

県西ブロック校長会研修会が

一〇月二四日（火）茨城県県西生涯学習センターにおいて開催された。来賓として、県西教育事務所長稲川善成様、県西地区市町教育長代表赤荻利夫様のご臨席を賜り、県西管内各小中学校長一五二名が、「創意と自校の実情を生かした学校経営の研究と実践」を研究主題として研修を行った。

分科会では、講師として県西教育事務所の五名の先生方に指導助言をいただいた。

五つの分科会では、小学校三名、中学校二名の会員が提案発表を行った。各分科会とも活発な協議が行われ、今後の学校経営の参考になる充実した研修となった。発表者と副主題は次のとおりである。

第一分科会

「感謝」と「つなぐ」の思いを込めて」
桜川・紫尾小 鶴見 正

第二分科会

「教職員の意識改革と地域との連携を核とした組織の活性化を目指して」
結城郡・下結城小

第三分科会

「キャリア教育を生かして教育活動の『つなぎ』を図る」
筑西・河間小 塚田 薫

第四分科会

「人間性豊かで自立することのできる生徒の育成を目指して」
常総・水海道西中 倉持 功

第五分科会

「積極的な生徒指導を基盤とした学校経営」
下妻・東部中 増田 徹

最後に古河市出身の落語家、春風亭柳橋先生より「笑いの効能」の演題でご講演をいただいた。コミュニケーションの基本となる言葉の大切さを再確認できた貴重な時間となった。



大澤 敦子

ひばり



つくばみらい・豊小 中田 和彦

おかバさま
常陸大宮・山方中
菊池 久義

先日、無人の自動運転車による一般公道での走行実験が行われました。将来的には、無人タクシーなどの実用化が期待されます。また、パーキング操作をボタン一つで行う車が販売されました。今後、高速道路の逆走やブレーキの踏み間違えなど、判断ミスや誤操作による事故が減ることでしょう。自動運転の進歩によって、免許証返納の必要性もなくなり、高齢者にとってありがたい時代を迎えます。さて、子供たちが活躍する

一〇年後、二〇年後の社会はどのようなになっているでしょうか。人工知能の進化やグローバル社会の進展によって社会の変化は加速度が付き、約半数の仕事が自動化され、子供たちの六五％は現在存在しない職業に就くと言われています。予測困難な社会を生きる子供たちにとっての大きな力を身に付けさせるのが次期学習指導要領改訂の出发点でした。高校生の頃、判断をコンピュータに委ねる未来社会を揶揄した星新一作「おかバさま」を読み、自ら判断する大切さを痛感しました。まさに今、主体性がキーワード、ご一読あれ。

地域とともにある学校

那珂・瓜連中
後藤 一成

平成の大合併前の旧瓜連町には、小学校と中学校が一枚ずつ設置されていた。那珂市となり、平成二七年度から小中一貫教育が、翌二八年度から学校運営協議会制度がスタートした。これらが両輪となって、地域とともにある学校を目指している。小中一貫教育では、郷土を愛し、夢や希望をもち、自ら学び、たくましく生き抜く児童生徒の育成を目指している。学校運営協議会は、保護者・地域住民等の学校運営への参画の促進及び連携強化を図ることにより、学校と地域住民等との信頼関係を深め、一体となって学校運営の改善や児童生徒の健全育成に取り組むことを目的としている。

さらなる推進に向けて、その原動力となるのが、認め合い、支え合い、活かし合える教職員集団である。生徒一人一人の夢や希望の実現、さらには郷土に貢献する力を培っていくことのできる教職員集団が、盤石な体制で取り組むことがまさに求められている。いよいよ正念場を迎えるとともに、真価が問われる。

地域とともに

日立・東小沢小
梶山 義博

「ドーン!」「ドーン!」と体育館から太鼓の練習の音が校長室まで響きわたってくる。この太鼓は、昨年創立百周年を記念し、地域の方々の寄付により購入したものである。そして、新たに学校と地域が一体となった特色ある活動として取り組んでいるものである。すでに、太鼓の発表も地域だけでなく県や市の行事でも実施してきて、児童たちも自信をもって演奏ができるようになってきた。本校は全校児童が三二名と少ないが、その分何をするにも地域とともに一丸となって学校運営を進めている。先日、土曜授業で地区交流センター、地区公民館、保護者・地域の皆さんの協力により、三代目交流会を盛大に実施することができた。事前の準備、当日の運営にも地域の皆様の協力がなければ、とても職員だけでは実施できない行事である。児童も親だけでなく地域の方とも面識があり、顔も名前も全員知っている状況である。

地域とともにある学校と感じている毎日である。本当に地域の皆様に「感謝」である。

桜を守る会

鉾田・諏訪小
藤崎 しのぶ

「桜を守る会と愛校会」。本校を強力にバックアップしてくださっている後援会組織である。どちらも各区长・PTA役員が中心となって組織されている。桜を守る会は、校庭の桜の木々を守りながら、本校と共に歴史を刻んできた。春には桜の木の消毒をして、毛虫の害から守る。秋には、PTA環境指導委員も加わって、桜の木の剪定を行い、病気の枝を切る。これらの作業によって、桜の木々は毎年見事な花を咲かせる。子供たちは、お花見給食を楽しみ、保護者や地域の方、学校前の道路を通行する車も、その花の見事さに見とれてしまうほどだ。子供たちは、桜を守る会の皆さんが、諏訪小を大切に想い、桜の木々を守るために多くの活動をしてくださっていることを知っている。先日行われた「すわキッズフェスティバル」では、感謝の会を開き、お礼の気持ちを直接伝えることができた。統合まであと一年。桜の木を通した学校と家庭、地域とのつながりがいざれ弱くなってしまうと思うととても残念である。

日々の営みから

龍ヶ崎・城西中
高田 利信

毎朝、立哨し「おはようございます。」と生徒とあいさつを交わしつつ一日が始まる。毎日顔を付き合わせていると『いつもと何か違う』と直感するときがある。登校して来る時間・顔の表情・声の質・目を合わせられない等々。おそらく、『いつもと違う』原因があるはず。三日続くと担任に伝えるようにしている。担任に聞くと「実は○○なんです。」と話を聴き、おおむね原因をつかみ対応している。それを聞く度に生徒と向き合っている職員たちへの感謝の気持ちが込み上げてくる。

そんな時、かつてつかえた校長の「日々の営みを大切にせよ。」の言葉を思い出す。

校長が直接、子供とかかわれる機会は極めて少ない。であるならば、少しでも自分で感じた生徒一人一人の現状を担任に伝え、チーム対応の一役を担うことが、私ができる『子供のために行えること』と自覚しなければならぬ。

今後、私ができる日々の営みから見える現状を職員に伝えながら『怒らず・驕らず・侮らず』学校経営に努めていきたい。

幼小連携で伸び合う

取手・藤代小
柏 孝子

藤代小学校は幼稚園と校舎を共有しているので小学校と幼稚園との交流が盛んである。

一年生の「小学校の教室へようこそ」を始めとして各学年との交流を行っている。二年生の生活科「秋祭り」のお客様は幼稚園児。児童は、小さな弟や妹が楽しく安全に遊べるよう工夫を凝らした力作で臨んだ。さらに、秋祭りに老人ホームの皆様をご招待した。お年寄りが楽しみにボールを転がせるようになど、幼稚園児とは違った視点で配慮する様子に成長を感じた。

また、小学校のマラソン大会には、手作りの応援旗を手に、園児がかわいい声援を送ってくれる。小さな応援団の「がんばれー」が聞こえると児童の走るスピードは心なしかアップする。

幼保小のスムーズな連携という視点で、職員の相互参観・入学時の情報共有なども計画的に実施し、有効である。理科専門教員が幼稚園で「ダンゴムシ博士」の出前講座を実施したのも好評であった。

幼保小中で共に伸び合える教育活動を展開していきたい。

時速六〇キロで走行中

下妻・高道祖小
島田 和夫

「校長先生、来週の職員会議よろしくお願いします。」

「えっ、この前やったよね。」

「この前やったのは一か月前ですよ。」

この頃教頭や教務主任とこんな会話をかりしている。

速い、時が過ぎるのがあまりにも速すぎる。

以前読んだ本に、「生きる速度は、年齢に比例する」とあったが、現在の言葉を切に痛感している。

子供の頃は、一日、一週間が長くて長く、「早く日曜日や長期休業がこないかな」と思っただけだったのに。

時速一〇キロ台でゆったりと過ぎていた日々が今は六〇キロに近い速度で慌ただしく駆け抜けていってしまう。

この先は、速度超過だと思いう反面、だからこそ毎日の生活や人との出会いを大切にしていかなければ、と考える今日この頃である。

歳数と同じ速度で
緩める術は
有りや無しやに
過ぐる四季

水害の後に思うこと

常総・豊岡小
吉田 典子

市内には、電柱に赤いテープが貼ってあるところがある。想定最大規模降雨による洪水が発生した場合に、想定される浸水の深さの最大値を看板やテープで表示してあるのだ。かなり高いところに貼ってあるところもある。

二年前のあの朝、いつも以上に轟々と流れる鬼怒川を見た。子供の頃から見てきた川だ。台風の後にはよく水かさが増していたが、何日かたてば元に戻る。

今回も同じだろう、そんな気持ちだった。しかし今回は違った。市内では、この関東・東北豪雨のために大きな被害を受けた。自宅も床上浸水となった。自宅付近は海のようになり、しばらく近づけなかった。それでも床上まで浸水しているとは思わなかった。

「まさか、こんなことは起こらないだろう。」と言う思いは何の根拠もない。水害に限らず、「いつどこでどんなことが起こるか分からない。」と考えるければならないのだと実感した。しかし、二度と同じ経験はしたくない。皆、同じ気持ちだろう。

読んでみませんか

新学習指導要領がめざす
これからの学校・
これからの授業

著者 高木 展郎他
出版社 小学館

間もなく実施される新学習指導要領に基づいた新しい学校教育。現行の学習指導要領からの大幅改訂に伴い、学校や教育関係者の間に様々な戸惑いや不安があります。明治維新以来の教育改革とも言われています。教師の意識改革が必要です。なぜ、「学力」ではなく「資質・能力」という言葉が使われている

今回も同じだろう、そんな気持ちだった。しかし今回は違った。市内では、この関東・東北豪雨のために大きな被害を受けた。自宅も床上浸水となった。自宅付近は海のようになり、しばらく近づけなかった。それでも床上まで浸水しているとは思わなかった。

「まさか、こんなことは起こらないだろう。」と言う思いは何の根拠もない。水害に限らず、「いつどこでどんなことが起こるか分からない。」と考えるければならないのだと実感した。しかし、二度と同じ経験はしたくない。皆、同じ気持ちだろう。

今回の内容は、新学習指導要領の審議に携わった著者が、千人以上の教員アンケートから浮かび上がった疑問・不安を捉え直し、新学習指導要領の意図するものについて、一つ一つの問いに答える形で丁寧に解説しています。私にとって必要な一冊でした。

ひたちなか・田彦中
栗原 裕一

梅のかおり

—先輩校長から—



四つのやりたいこと



前・茨城町立
明光中学校長
高倉 進

最後の勤務校は、若い頃に教員の礎を築かせていただいた学校である。全く予期していなかった「校長先生の卒業式」には涙するほど感激した。何のとりえもない自分に、ご褒美がいただけた気がした。一番迷惑をかけた家族にも喜んでもらえた。自分のような者が教員を続けられたことを、関わってくださった多くの方々に深く感謝している。

定年退職して一年が過ぎようとしている。かつて専任生徒指導主事時代に、「退職後のことを考えておけ。それは仕事以外に、一人でできること、複数でできること、内のできること、外のできることをの四つだ。」と、

校長先生から言われたことを思い出す。退職したら、やりたいことがいっぱいあったはずなのに何も進んでいない。現在は、水戸教育事務所にお世話になっている。仕事があるから、やりたいことが進まないのではなく、意欲の問題だと分かっているのだが、なかなか踏み出せないでいる。ようやく新しい生活環境にも慣れてきた。教育界だけでなく、家族への貢献や親の介護、地域活動等、少しでも恩返しをしながら、やりたいことに取り組もうと考えている。

第二の人生を迎えて



前・東海村立
石神小学校長
大友 光男

定年退職をして、二年目を迎え、現在、幼稚園教育に携わり、充実した日々を送っています。幼児の笑顔と向きあう中で、教育の原点として、幼児教育の大切さを感じています。

振り返ってみると、夢を膨らませ、高萩小学校の門をくぐった三九年前。その後、常澄村・ひたちなか市・研修センター・東海村など多くの先生方や保護者の方々などに、貴重なご助言

やご指導をいただき、様々な経験をすることができ、感謝いたしております。お陰様で、豊かな人生を歩むことができたと思っております。

これからの人生は、お世話になったことを忘れず、感謝の気持ちを胸に、少しでも社会の役に立てるよう、人生を歩んでいきたいと考えています。

また、退職後は、諸先輩方から、退職後の在り方など、貴重な経験談を聞かせていただいたり、先輩方が計画された行事に参加させていただいたりして、生活に潤いが少しずつできました。

マネジメントの一例



前・常陸太田市立
太田中学校長
榎村 毅

これからも、様々な行事や活動に参加させていただき、より豊かな人生を歩んでいければと思っています。

現場を離れて約半年が過ぎ、新しい生活リズムにも慣れてきました。体調にやや不安はあるものの、趣味のゴルフの回数も増えました。私は以前から学校経営とゴルフには、多くの共通

点があると考えていました。学校は年齢や性別、立場等の違う多くの教職員で構成されています。一方ゴルフは、一四本の違ったクラブを駆使しプレーをします。例えば元氣のある若手はドライバーやウッド系。中堅はミドルアイアン。省令主任はショートアイアンやウェッジ。そして最もスコアに直結するパターは教頭先生。

そのクラブ（教員）をいかに使いこなすがプレイヤー（校長）の手腕かと思えます。もちろん信頼関係という、普段の練習なしには成果は期待できません。

プレイヤーは、そのボールの状況やグリーン周り等を冷静に判断し、チャンスの確率を高めるとともに、いかにリスクを避けるかを念頭に決断しなければなりません。これこそ学校経営のマネジメントです。そしてゴルフファーの心強い味方であるキャディは、教育長さんかと思えます。キャディのアドバイスはスコアを大きく左右します。

転ばぬ先の...



前・潮来市立
潮来第二中学校長
小松崎 修平

一〇月二三日、大型で非常に強い勢力の台風二一号が、暴風域を伴って関東地方を縦断していった。我が家では、家庭菜園が最も被害を受けた。特にキャベツは無残に九割がだめになった。また、菊の支柱が簡易のため、上部が振り回されて倒れ、口まみれとなった。仕方なく、切り花の菊栽培農家を真似て垣根仕立て風に、支柱の再構築を試みた。しかし、作業は案外面倒で、時間ばかり浪費した。開花時期や伸長の仕方を想定して強い支柱を組んでおけば...と、愚痴りながら作業に励んだ。

おや、自分の現状と重なるかなど苦笑い。「欧米では退職後を想定し周到準備、第二の人生にワクワク」「日本人は、仕事に全力投球、気がつけば、退職後の生活に不安感」。まさに、菊栽培農家は、その最終形を想定した確に支えを作る。同様に、退職後の状況を具体的に把握できれば、頑丈な支え作り（人生設計）が画策できるかと思つた。

現在、私は教育弘済会の参事として学校説明会等を行っているが、学びの日々である。教育現場で日夜、奮闘している教職員の「転ばぬ先の...」に微力ながら、なつていければと思う。

退職後こそ充実を



前・牛久市立
下根中学校長
岩田 博

退職したという実感がほとんどない。現在も退職前と同じ牛久市で教育指導員という仕事を与えていただき、毎日学校回りをしているせいだろう。前年まで同僚だった校長先生方と一緒に教室を回って授業を観ながら、どうすればすべての子供に学びを保証できるだろうか、気になるあの子を幸せにするには何ができるだろうか、共に悩み考え続ける日々は、現役時代と何も変わっていない。むしろ、市内の校長先生方の様々な取組や努力を知って、自分にももっとやれることがあったのではないかと自問自答することの方が多い。幾らかでも自分の経験が現場の役に立てばという思いで共に学ばせてもらっている。充実した日々である。

「退職したら、地域社会の役に立つように」との先輩諸氏のお誘いにより区会役員や保護司などを承りましたが、一方で再任用教諭として学校に勤務させていただいています。

教育応援団



前・つくば市立
竹園東中学校長
岡野 和夫

「退職したら、地域社会の役に立つように」との先輩諸氏のお誘いにより区会役員や保護司などを承りましたが、一方で再任用教諭として学校に勤務させていただいています。学校が、その抱える様々な課題解決のため地域社会と連携を進めている今、我々退職校長には、学校と地域社会の中間的位置にいる者として、長く教育に携わった者として、学校（先生方）の悩みの解決や前向きな挑戦を支援する役割が求められているのだと感じています。とは言い、一人でできることには限りがあります。今年度つくばでは、教育関係者OBが核となつて「グローバルな人材育

成と各世代の能力開発に寄与すること」を目的とする団体が発足しました。教員向けの研修も開催され、これまでにない支援の形として注目されています。このような訳で、私も今少し教育応援団の一員であり続けたい思うようになりました。そしてそのためには、私自身が教育への情熱をもち、前進し続けなくてはならないと感じています。

ヨレヨレの一年生



前・五霞町立
五霞中学校長
野村 剛

四月から大学院の一年生、自分の子供より若い同級生や先輩に囲まれて、気ままな生活を送っています。と言いたいくところですが、授業と宿題で頭を悩ませています。教授に「野村さん、忙しいんですか。こんなレポートで、誤字脱字が多くてダメですよ。」と叱られます。「いい年齢なので忙しいと言うより、無理がききません。」と返答してその場をしのいでいます。宿題がままならない時は、中退しようか思うこともあります。

が、離任式で卒業生に「校長先生も大学院生になります。みんなも高校生活を全うしてください。」と言った手前やめられず、何とか修了だけはしたいと思っています。今頃になって、中学生は部活の後に宿題をやるんだから大変だろうなと共感しているところですよ。

今、大切にしたいこと...

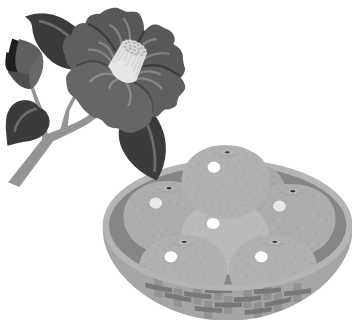


前・古河市立
河第四小学校長
中野 庸治

暇があれば本を読んで、宿題のレポートを書くという毎日、二千歩ほどしか歩かなかつた校長時代とは違い、広いキャンパスと図書館を行ったり来たりで一日一万歩、歩いています。研究では、教員の自主研修サークルが果たしている役割を明らかにしたいと思っています。皆さんにインタビューをお願いに行つた際は、快く応じていただければありがたいです。

昭和三六年度から半世紀以上超過した学習指導要領の変遷をキーワードからたどつてみる。

「道徳の時間、基礎学力」、「教育内容の現代化」、「ゆとりと充実」、「生活科、心豊かな人間の育成」、「生きる力の育成」、「知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成」そして、平成三三年度実施、「社会に開かれた教育課程、主体的・対話的で深い学び」時代の変化に対応して改訂のポイントが示されている。方向性としての、「何ができるようになるか、何を学ぶか、どのように学ぶか」は、これまでの教育の積み重ねであると信じている。目の前にいる子供たちと共に学ぶ中で、「今、何が必要で、何ができるか」を常に考え、人と人が豊かにつながる優しい人になる子供を育てる仕事を大切にしていきたいものである。



市町村教育委員会と学校長会

神 栖 市

市教育委員会との 連携について

神栖・波崎第三中
木之内 英一

神栖市校長会は、小学校一五校、中学校八校の計二三校で組織されている。

本市では教育目標を

(一) じょうぶな身体と、たくましい心をもつ人間性豊かなひとづくり

(二) 知恵と技をもち、未来をひらく向上心みなぎるひとづくり

(三) 郷土を愛し、協力しあい、活力あふれるやすらぎのまちを創造するひとづくり

と定め、「たくましく、しなやかに 未来をひらく、創造性豊かなひとづくり」を推進している。

一 定例校長研修会の開催

市校長会では、毎月の定例校長研修会と必要に応じて、臨時の研修会を開催している。定例の研修会は、市教育委員会主催の学校長会議と同日に開催され、第一部として、

(一) 教育長指示・伝達事項

(二) 教育委員会事務局連絡事項

(三) 学校運営上の課題等

(四) 質疑・意見交換

が行われている。

二 学力向上への取組

本市では、重要施策である児童生徒の学力向上に校長会・教育会と教育委員会が連携して取り組んでいる。

(一) 市学力向上プロジェクト

神栖市授業スタイルを取り入れた各中学校区による主体的・対話的で深い学びのある視点からの授業改善に、全教職員で取り組んでいる。平成二五年度からスタートし、今年度は二八年度から二九年度までの「第一ステージ・拡充期」を迎えている。

(二) のびのびコンテスト

基礎学力の定着並びに家庭学習の習慣化、学習意欲の向上をねらいとして、国語(漢字力)、算数・数学(計算力)、英語(中学校のみ、単語力)の内容で、年間二回実施している。

(三) 研究指定校制度
毎年度、小学校二校、中学

校一校を指定し、当該校が二年間の研究の成果を発表し、児童生徒の学力向上と教職員の指導力の向上を目指すしている。

(四) 全国学力・学習状況調査の結果分析と授業改善

教職員の代表による検討委員会を設置し、市の結果分析と改善の提示を行い、各校で有効活用している。

北 相 馬 郡

町教育委員会との 連携について

北相馬・文小
根本 清史

利根町校長会は、小学校三校、中学校一校の計四校で構成されている。

毎月開催している定例の研修会は、教育長、指導室長、学校教育課長を加え、七名で運営している。

本町では、学校教育指導の方針及び重点を

○ 創意を生かした特色ある教育課程の編成

○ 夢をはぐくみ、個性をのばす

す教育活動の創造

・ 心の居場所としての学級及び学校づくり

・ 分かる楽しさ・できた成就感を実感できるきめ細かな授業の展開

・ 人間の在り方・生き方を大切に心した心の教育の充実

・ 一人一人の教育的ニーズに応じた支援体制の充実

○ 信頼と活力を生む開かれた学校づくり

とし、児童生徒の将来を見据えた能力の育成と教育環境の充実をめざしている。

一 教育支援体制の充実

「特別支援教育支援員」を全ての学校に配置している。通常

学級に在籍する配慮を必要としている児童生徒への支援や落ち着きに欠ける児童に寄り添いながら生活習慣の安定と習慣化のためのサポートを行っている。担任一人では対応が難しい状況が改善され、一人一人が学習に向き合う時間が確保され、落ち着いた学校生活を送れるようになってきている。

配置にあたっては、各学校と連携をとりながら、児童生徒の状況に応じた適切な配置を町教育委員会が主導となつて行っている。

二 学力向上への取組
課題の一つである学力向上に

対して算数・数学の学習支援を行う「T T指導員」を平成二八年度より、各学校に二名配置し、

授業者とのチームティーチングや少人数加配と連携した学習指導を行っている。個別にかかわる指導員により、基礎基本の定着が図られてきている。

三 学校生活への復帰支援

利根町適応指導教室設置規則が制定され(平成二八年)、不登校児童生徒への対策の充実が図られている。教員免許をもっている指導員が家庭・学校と連携を取りながら、友達と共に学校生活を送れるように個に応じた支援を継続している。

〔お詫び〕

前号にて、神栖市立太田小学校長 成島崇之先生のお名前の文字に誤りがございました。正しくは右記のようになります。心よりお詫び申し上げます

編 集 後 記

皆様のお陰をもちまして今年度最後の二四〇号を無事発行することができました。

お忙しい中、貴重な原稿をお寄せいただきました皆様に厚く御礼申し上げます。